



LSM-VIA | バージョン 1.7.27 リリースノート

(2023 年 11 月)

新しい機能

バージョン 1.7.26

＞ LSM-VIA 1.7 は、Multicam 20.5 との互換性に加えて、Multicam 20.6 と互換性があります。

バージョン 1.7.25

＞ 長押しによってコンテンツを LSM-VIA リモート ショートカット ボタンにマッピングするタイマーが、600 ミリ秒から 1 秒に増加されました。

バージョン 1.7.14

＞ LSM-VIA は MultiReview 機能を提供するようになりました。

LSM-VIA MultiReview は、LSM-VIA ユーザーがネットワーク全体からレコーダーを操作できるようにする高度なモードです。

これは、ネットワークのすべての EVS サーバー レコーダー チャンネルからのフィードを表示および参照し、魅力的なカメラ アングルを選択してクリップを作成およびエクスポートしたり、プレイリストを構築したりするために使用されます。

LSM-VIA MultiReview 機能は、専用の“LSM-VIA-MRV”ライセンス コードが XClient-VIA ユニットにインストールされている場合にのみ使用できます。

＞ LSM-VIA コンフィグ ツールは、サーバー プレーヤーを LSM-VIA オペレーターに割り当てるためのより柔軟な機能を提供します。

各オペレーターは、連続したプレーヤーのみを選択するという制約付きで、特定のプレーヤーを個別に選択できます (オペレーターごとに最大 3 つのプレーヤー チャンネル)。

一部のサーバー プレーヤーは、他のプロトコルによって排他的に制御されるように、LSM-VIA コンフィグで割り当てられないままにすることができます。

＞ LSM-VIA は、異なる PC LAN ネットワーク上にあるネットワーク EVS サーバーのコンテンツに完全にアクセスでき、これは、特定のイベントのために複数の OBTruck を相互接続する必要がある場合に特に役立ちます。

＞ Pref. CAM の概念が EVS サーバーでまだ定義されていない場合、Growing クリップをより速くロードできます。

＞ LSM-VIA Viewer から特定のページ/バンクに移動するには、1 桁 (ページのみ) または 2 桁 (ページ + バンク) を入力し、F7 キーボード ショートカットを押します。

＞ LSM-VIA Viewer アプリケーションの Playlist View に移動すると、LSM-VIA は、以前に選択したプレイリストではなく、前のクリップ グリッド ナビゲーションに対応するプレイリストに移動します。

＞ LSM-VIA Viewer から、現在のサーバー クリップ グリッドと、以前にアクセスしたサーバー クリップ グリッドの間を行き来するには、SHIFT + F9 キーボード ショートカットを使用します。

＞ LSM-VIA の再起動が必要なコンフィグ パラメータを更新する場合、オペレーターには、コンフィグ ツールから直接 LSM-VIA を再起動するオプションがあります。

＞ LSM-VIA セットアップを構成するエンジニアは、LSM-VIA コンフィグ ツールから“EVS Server connection check”ボタンにアクセスして、ローカル サーバーに適切にアクセスできるかどうか、および LSM-VIA とサーバー間の接続が正常かどうかを確認できます。

＞ VIA-Xsquare 4.7 がセットアップに導入されている場合、LSM-VIA オペレーターは、専用ボタンまたは F11 キーボード ショートカットを介して、LSM-VIA Viewer アプリケーションから VIA-Xsquare モニタリング ツールにアクセスできるようになります。

＞ 接続情報は、接続されている LSM-VIA リモコン、XClient-VIA、ローカル XT サーバーの LSM-VIA Remote About メニューで確認できます。
(PC LAN アドレス、ホスト名、XNet 番号と名前)。

> LSM-VIA リモコン ショートカットの改善:

- Shortcuts カテゴリが再編成されました。

制御されるチャンネルに影響を与える機能と LSM-VIA 制御モードへのショートカットが “Control” カテゴリに再グループ化されました。

ネットワーク コンテンツまたはサーチ ワークフローに関連する機能は、“Content Access” カテゴリに再グループ化されました。

それに応じて、“Generic” カテゴリのコンテンツが削減されました。

- “Multi-PGM” & “PGM+PRV” 制御モードへのショートカットが、“Control” カテゴリに追加されました。

バージョン 1.6.30

> VIA-Xsquare 4.6 との互換性により、Export ワークフローに関して次のことが可能になります:

- ソース XT サーバーを宛先サーバーとして使用します。

- EVS.xml からの LSM-id を保存して、宛先として使用します。

バージョン 1.6.19

> 制御されている最小のプレーヤーにロードされたクリップのタイムコードは、LSM-VIA Viewerから (Clip & CAM モードの両方がサポートされています)、現在ロードされているタイムコードで再ストライピングできます。

> クリップのKeywords & Ratingは、すべてのアングルで同時に編集できます (Clip モード)。

> オペレーターは、特定のクリップの全てのアングルを一度に VIA-Xsquare ターゲットにエクスポートできます (Clip モード)。

> 最小制御プレーヤーにロードされたレコード トレインの一部は、最初にローカル XT サーバーでクリップを作成する必要なく、LSM-VIA Remote ショートカットにマップされた VIA-Xsquare ターゲットにエクスポートできます。

> リモート ワークフローにおける LSM-VIA の改善:

- 高いレイテンシーの場合でも、クリップ作成ワークフローが適切に保護されるようになりました。

(以前は、レイテンシーのため、OUT点でサーバーの応答を受信できなかったため、オペレーターが“OUT”の直後に“Save”を押した場合のみ、IN でクリップが作成されました。)

- 全ての基本的なチャンネル制御操作の応答性が改善されました

(Jog、Lever、Play、Load、Live、Swap、Sync to、Next、Skip、Step、Freeze)。

> LSM-VIA Remote ショートカットの改善:

- “Export”機能は、“Generic”セクションからアクセスできます。

- キーワードファイルで定義された任意のキーワードをショートカット ボタンにマップして、高速なメタデータ タグ付けを有効にすることができます。

- レコード トレインの REC Nameは、すべてのショートカット インターフェースで LSM ID の上に表示されます。

- リモート パネルの CLEAR キーを使用すると、ショートカット マッピングをすばやくクリアできます。

> LSM-VIA ユーザー インターフェースの改善:

- LSM-VIA Remote ヘッダーに表示される情報が見直され、現在のページ/バンクの表示が大きくなりました。

- インストールされている LSM-VIA のバージョンは、LSM-VIA Web web configuration toolに表示されます。

バグ修正

バージョン 1.7.27

- ＞ レコード トレインをプレイリスト アイテムとして含むプレイリストをロードすると、LSM-VIA がクラッシュしていた、（これは IPDirector からのみ実現できます）問題を修正。

バージョン 1.7.26

- ＞ オペレーターが LSM-VIA Viewer アプリケーションからサーバー ページとバンクをすばやく移動しているときに、LSM-VIA が応答しなくなることがあった問題を修正。
- ＞ VarMax、PGMSpeed、または Second Lever Range が有効になっているときに LIVE に戻ると、機能が非アクティブになり、レバー範囲がデフォルトにリセットされていた問題を修正。
- ＞ LSM-VIA Viewer アプリケーションの Search 機能は過剰なログを生成し、ハードドライブが飽和状態になり、ログ アーカイブが大量に蓄積されていた問題を修正。

バージョン 1.7.25

- ＞ LSM-VIA と LSM-VIA MultiReview の両方のライセンスが同時に期限切れになると、オペレータがライセンス情報ポップアップを検証するときに、起動時に LSM-VIA Viewer アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。

バージョン 1.7.17

- ＞ LSM-VIA 1.7.14 ISO が展開されたとき、LSM-VIA アプリケーションのログはすぐには機能しませんでした。回避策として、ISO の展開後に LSM-VIA 1.7.14 アプリケーション（AppImage パッケージ）を再インストールする必要があった問題を修正。
- ＞ センタライズ インストーラ ツールで“forceInstall”オプションが False に設定されている場合でも、LSM-VIA はすべての XClient-VIA ハードウェアにインストールされたままだった問題を修正。

バージョン 1.7.14

- ＞ LSM-VIA Viewer アプリケーションが起動時にクラッシュすることがあった問題を修正。
- ＞ LSM-VIA アプリケーションは、クリップを再トリムし、ライブに戻り、更新されたクリップを素早いシーケンスで再ロードするときにクラッシュすることがあった問題を修正。
- ＞ XNet のサーバーがネットワークにすぐに再接続または切断すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- ＞ クリップの名前が TSL プロトコルから変更され、新しい名前に特殊文字が含まれる場合、ローカル EVS サーバーへの接続が中断されることがあった問題を修正。
- ＞ LSM-VIA リモコンからは、指定したフィールドにマーク ポイントを設定できませんでした。さらに、特にプログレッシブ フォーマットでは、LSM-VIA オペレーターは指定フィールドに IN ポイントや OUT ポイントを設定できなかった問題を修正。
- ＞ クリップを素早く作成すると、クリップが長時間にわたって拡大するように表示されることがあった（ビューアーの回転ホイールとリモコンの F キーの点滅）問題を修正。
- ＞ 状況によっては、LSM-VIA Viewer のクリップ グリッドに表示されるクリップ コンテンツが、EVS サーバーの実際のデータベースと一致しなくなった問題を修正。
- ＞ LSM-VIA Viewer からクリップをカット＆ペーストすると、一部のクリップ アングルが Viewer のクリップ グリッドに表示されなくなることがあった問題を修正。
- ＞ LSM-VIA Viewer からクリップ アングルを削除し、その後クリップがローカル サーバーにロードされると、LSM-VIA リモコンの A-B-C-D-E OLED に既存の正しいアングルが表示されないことがあり、オペレーターがロードされたアングルを変更すると、対応するボタンが誤動作することがあった問題を修正。

- > クリップを PRV から PGM チャンネルにスワップするときに、プレイアウトが PGM チャンネルで一時停止された場合、定義されたクリップ ポストロールはスワップ後に PGM で再生されなかった問題を修正。
- > プレイリスト素材の編集と削除を同時に行うと、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- > オペレーターがプレイリスト素材内に CUT を追加しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- > EVS サーバーが制御されたチャンネルで LIVE に移行しているときに、プレイリストの再生後に E/E を押したときに、LSM-VIA リモートの LIVE モードに戻れない場合があった問題を修正。
- > プレイリストを操作する場合、オペレーターが要求していないにもかかわらず、LSM-VIA がライブに戻ることがあった問題を修正。
- > Audio Split シナリオで、オペレーターがトランジション エフェクトのデュレーションを編集しているとき（オーディオとビデオの両方を同時に）、2 つのクリップ間のトランジション ポイントが正しくありませんでした。
2 番目のクリップの OUT ポイントも同様に影響を受け、結果として次のトランジションに影響を与えた問題を修正。
- > LSM-VIA Viewer アプリケーションからアクティブなプレイリストに挿入されたクリップは、LSM-VIA で定義されたデフォルトのトランジションではなく、CUT トランジションを使用して挿入されることがあった問題を修正。
- > LSM-VIA Viewer アプリケーションからアクティブなプレイリストに挿入された SLSM クリップは、LSM-VIA で定義された “Insert SLSM at Native Speed” パラメータに従うのではなく、Unknown 速度で挿入された問題を修正。
- > 単一のプレイリスト素材を含むプレイリストを再生する場合、Loop パラメーターは考慮されなかった問題を修正。
- > プレイリスト素材間の CUT トランジションを使用して LSM-VIA からプレイリストをフラット化すると、結果のクリップのトランジション ポイントに誤ったフレームが挿入される場合があった問題を修正。
- > VIA-Xsquare パスワードは、LSM-VIA コンフィグ ソース ページからプレーン テキストで表示された問題を修正。
- > “Hashicorp Consul” コンポーネントは、LSM-VIA ISO とともに展開されました。
このコンポーネントは、関連するセキュリティ問題のため、LSM-VIA パッケージから削除されました。
- > XClient-VIA ユニットの以前にデプロイされた TeamViewer バージョンで、いくつかのセキュリティ脆弱性が検出されました。
これらの脆弱性を修正するために、TeamViewer の最新バージョンは LSM-VIA 1.7 ISO に統合されました。
この修正の恩恵を受けるには、完全な LSM-VIA 1.7 ISO を展開するか、フォトリオンに問い合わせて TeamViewer を手動でアップグレードすることができます。

バージョン 1.6.33

- > LSM-VIA リモコンが、大規模なネットワーク環境で切断されることがよくあった問題を修正。
- > XT サーバーと LSM-VIA アプリケーション間の接続が正しく機能しないことがあり、その結果、リモコンからトリガーされた操作がサーバー側に影響を与えなかった問題を修正。

バージョン 1.6.29

- > PGM+PRV でプレイリストを編集しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- > プレイリストからプレイリスト素材を削除すると、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正
- > ネットワークの中断後に LSM-VIA アプリケーションを再起動すると、クラッシュすることがあった問題を修正。
- > オペレーターが離れた場所にある XT サーバー上で非常に迅速に (IN/OUT/保存) クリップを作成していると LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- > オペレーターが LSM-VIA リモートでユーザー定義のショートカットを設定/使用しているときに、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
- > オペレーターが LSM-VIA リモートでユーザー定義のショートカットを編集していて、VIA-Xsquare が利用可能なターゲットのリストを LSM-VIA に送信するのに時間がかかりすぎているとき、LSM-VIA アプリケーションがクラッシュすることがあった問題を修正。
具体的には、VIA-Xsquare がまだターゲットを送信していないときに、オペレーターがショートカット編集画面を閉じていたときです。
- > ローカル XT サーバーに保存されたクリップにマーク ポイントが設定されている場合、LSM-VIA が正常に起動しない場合があった問題を修正。

- > コンフィグサービスのクラッシュが原因で、XClient-VIA の再起動後に LSM-VIA コンフィグにアクセスできないことがあった問題を修正。
- > 非常に大規模なセットアップ (XNet-VIA ネットワーク上の膨大な数の XT サーバー) では、レコード トレインの一部を VIA-Xsquare ターゲットに直接エクスポートできないことがあった問題を修正。
回避策として、オペレーターは最初にローカル サーバーでクリップを作成する必要がありました。
- > XNet-VIA ネットワークが頻繁に更新される大規模なセットアップでは、VIA-Search サービス データベース内の同じキーワードに対して複数のエントリが作成される可能性があります。
その結果、オペレーターは、ネットワーク上でクリップを見つけるためにフィルターとして同じキーワードを複数回設定する必要があった問題を修正。
- > PGM+PRV で作業しているときに、SLSM フィードが PGM チャンネルにロードされ、標準フィードが PRV チャンネルにロードされた場合、オペレーターは PRV CTRL モードで PGM のレバーを使用して SLSM スイート スポットにアクセスできなかった問題を修正。

バージョン 1.6.19

- > LSM-VIA アプリケーションがクラッシュした場合、手動でプロセスを強制終了するか、XClient-VIA ユニットの再起動しないと、後で再起動できない場合があった問題を修正。
- > LSM-VIA Viewer から、クリップを複数選択し アクティブなプレイリストに追加する時、デフォルト トランジションに Audio Splitが含まれていて、一部のクリップにスプリット トランジションを再生するのに十分なガードバンドがない場合プレイリストに複数選択の一部が挿入される問題を修正。
- > VIA-Search コンポーネントから複数のクリップを選択してアクティブなプレイリスト (LSM-VIA Viewer) に追加すると、一部のクリップが無視され、挿入されなかった問題を修正。
- > LoopとPost-Rollが同時に有効になっている場合、クリップまたはプレイリストをロードまたは再生することはできなかった問題を修正。
- > PGM+PRV では、ロードされたレコード トレインでオペレーターが IN または OUT ポイントを定義した場合、ロードされたコンテンツをPGM チャンネルと PRV チャンネル間で交換することができなかった問題を修正。
- > マーク ポイントを使用する場合、LSM-VIA Remote パネルの“Last Mark”キーを使用して一部のポイントに到達できないことがあった問題を修正。
- > LSM-VIA Viewer のSearch機能は、同じネットワーク内のすべてのユニットで同じ結果を出力しない場合があった問題を修正。
- > クリップ用の LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に表示される TimeCode 情報 (Short IN、Short OUT) が正しくない場合があった問題を修正。
- > クリップ用の LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に表示されるデュレーション情報が空だった問題を修正。
- > ローカルXT サーバーから、保護されていない全てのクリップとプレイリストをクリアすると、全てのプレイリストは適切に削除されましたが、一部のプレイリストに保存されているクリップが削除されないことがありました。
サーバーのコンテンツを効果的に消去するには、ユーザーは“Clear all Clips & Playlists”をもう一度実行する必要があった問題を修正。
- > プレイリストをローカル XT サーバーにフラット化すると、結果のクリップが数分間作成状態のままになることがあった問題を修正。
- > 同じネットワーク上で XT-VIA と XT3/XT4K サーバーが混在する環境で作業している場合、XT-VIA サーバーで作業している LSM-VIA オペレーターは、XT3/XT4K サーバーから VIA-Xsquare ターゲットにクリップをエクスポートできなかった問題を修正。
- > L Clip モードで、クリップをネットワーク サーバーからローカル サーバーに移動してから、ローカル サーバーの別の位置に移動すると、2回目の移動操作が機能しない場合があった問題を修正。
- > クリップで Move 操作が失敗した場合、オペレーターは自分のページとバンクでそのクリップを移動できませんでした。
回避策は、クリップをコピーしてからソースを削除することだった問題を修正。
- > 一部の特殊文字 (日本語の文字セットなど) が LSM-VIA Remote Screenで正しく表示されなかった問題を修正。

既知のバグと制限事項

既知のバグ

- > LSM-VIA コンフィグ ツールから LSM-VIA を再起動すると、LSM-VIA プロセスが応答しなくなる場合があります。
このようなシナリオの回避策は、LSM-VIA プロセスを手動で強制終了し、LSM-VIA も手動で再起動することです。
- > LSM-VIA アプリケーションは、ローカル EVS サーバーの記録プロセスが停止されたときだけでなく、その後再起動されたときにも誤動作することがあります。
- > プレイリスト内で SLSM クリップの速度が unknown に設定されている場合、プレイリストの残デュレーションが正しくなくなる可能性があります。
- > Audio Split では、オーディオ/ビデオトラックに意味をなさないトランジション期間（たとえば、前後のプレイリスト素材よりも長いトランジション）を定義しようとすると、オペレーターはエラー通知を受け取ります。
- > Audio Split を含むプレイリスト内のプレイリスト素材の速度を編集すると、失敗して以前の速度値に戻ってしまうことがあります。
- > LSM-VIA リモコン パネルから、プレイリスト素材の Speed または Effect Duration で Edit All を使用する場合、すべてのプレイリスト インターフェイスで実際の値の更新がスムーズではありません。
- > オペレーターが Always Mode のプレイリストから変更されたプレイリスト素材を削除すると、更新されたプレイリスト素材は PRV チャンネルに配置され、オペレーターは編集内容を維持したまま、後でそのプレイリスト素材をプレイリストの別の場所に挿入することができます。
オペレーターが削除操作後に Viewer から元のクリップを再ロードした場合、PRV チャンネルは元のクリップの境界に適切にジャンプしますが、その後オペレーターがクリップをプレイリストに挿入した場合、LSM-VIA は未使用のオリジナル クリップの代わりに、引き続き更新されたプレイリスト素材を挿入します。
- > プレイリストを Loop で再生しようとするとき、プレイリストに CUT トランジションを持つ 1 つのプレイリスト素材が含まれている場合、またはプレイリストが Playout Mode でロードされているときに Play コマンドがトリガーされた場合、正しく動作しません。
さらに、このようなシナリオで表示される残デュレーションは正しくありません。
- > XNet の切断/再接続後にネットワーク上のサーバーのレコード トレイン ID が変更されると、LSM-VIA オペレーターはその後、その特定のサーバーのレコード トレインにアクセスできなくなります。
この現象は、サーバーコンフィグがネットワーク上で更新された場合（6 OUT > 4 OUT > 6 OUT に戻る - その後、OUT 5 と 6 の ID が異なる）、またはサーバー側で “Clear Train” が実行された場合にも発生する可能性があります。
- > ローカル XT サーバーからプロテクトされていないクリップとプレイリストをすべてクリアすると、プロセスが数分間停止することがあります。
ただし、実行の終了時に、ローカル サーバーのプロテクトされていないコンテンツは事実上消去されます。
- > オペレーターが PGM に異なるクリップをロードし、オペレーターが PGM 2 または PGM 3 を制御する場合、LSM-VIA Viewer からリストラップされるクリップは、制御されている最小の PGM でなくても、PGM1 にロードされたクリップになります。
理想的には、Viewer から実行される restripe TC 機能は、機能をトリガーするときに、リモコン上で制御される最小の PGM を考慮する必要があります。
- > クリップが Loop で再生されているときに、オペレーターが 2 番目の Loop 中にもう一度 “Play” を押すと、クリップ ループはクリップのガードバンドを再生します。
- > LSM-VIA では、“=” 文字を含むキーワードは許可されません。
- > LSM-VIA Viewer アプリケーションの Search ウィンドウで、オペレーターが表示された結果の大きなリスト（例：数千のクリップ）をスクロールすると、画面右下のカウンターに結果の合計量に対して一貫性のない値が表示されます。
- > LSM-VIA リモートから SplitMix モードで作業し、オペレーターが 2 つのソース間の Mix% を編集する場合、サーバー マルチビューアー上の OSD フィードバックは利用できなくなりますが、Mix% は引き続きオペレーターによって調整できます。

> LSM-VIA を手動でシャットダウンすると、すべての LSM-VIA プロセスが適切に閉じられないことがあります
(例: LSM-VIA Viewer が適切にシャットダウンされている間、リモート ソフトウェアがまだ実行されているなど)。
その後 LSM-VIA を再起動しようとする、問題が発生する可能性があります。
回避策は、アプリケーションを再起動する前にすべての LSM-VIA プロセスを手動で強制終了するか、
XClient-VIA ユニットを再起動することです。

制限事項

- > LSM-VIA は、マルチオペレーターコンフィグでのプレーヤー チャンネル ロック メカニズムをサポートしません。
このような構成では、複数のオペレーターが同じプレーヤー チャンネルを制御することを避けるために、ユーザーは細心の注意を払う必要があります。
この制限により、製品の予期しない動作が発生する可能性があります（たとえば、オペレーターが同じチャンネルで異なるプレイリストをロードして再生している場合）。
- > LSM-VIA アプリケーションの実行中に、Multicam VGA 画面からクリップまたはプレイリストを操作することはサポートされていません。
これにより、EVS サーバーと LSM-VIA の間でデータベースの非同期が発生し、LSM-VIA Viewer でサーバーのコンテンツが適切に表示されなくなる可能性があります。
- > LSM-VIA MultiReview アドバンスド モードは、PMZ または同様のハードウェアにインストールされた仮想マシンではまだサポートされていません。
- > オペレーターは、制御されているプレーヤー上で長時間激しいジョギングを行うと、ローカル サーバーで応答性の問題が発生する可能性があります。
この問題は、負荷が高い大規模なセットアップで発生する可能性が高くなります。
場合によっては、アプリケーション全体が正常に動作しなくなる可能性があります。
この問題をさらに調査するために、LSM-VIA 1.7 には追加のログが含まれています。
- > 操作負荷が高い場合、オペレーターはクリップ作成ワークフローで速度が低下する可能性があります（クリップがビューアーに表示されるのが遅くなり、F キーがハイライトされるのが遅くなります）。
- > アクティブなプレイリストに多数の素材が含まれている場合、または XT サーバーに多数のクリップが含まれている場合、LSM-VIA リモコン パネルの起動または再接続に時間がかかることがあります。
- > オペレーターは、大きなプレイリストに対して“Edit All”コマンドを繰り返し使用すると、リモートで速度低下の問題が発生する可能性があります。
- > LSM-VIA リモコンと XClient-VIA 間の接続マイクロカットが発生した場合、XClient-VIA に接続されているリモートのリストに“ghost”リモコンが表示されることがあります。
その場合、オペレーターは、LSM-VIA ソリューション全体（XClient-VIA および LSM-VIA リモコン）を再起動するように求められます。
- > XClient-VIA に十分なハード ドライブ領域が残っていない場合、または XClient-VIA ユニットの長期間（数週間/数か月）中断することなく実行されている場合、オペレーターはオペレーティング システム レベルでフリーズを経験することがあります。
回避策は、XClient-VIA ユニットの定期的な（週に 1 回など）再起動し、ハードドライブを定期的にクリーニングすることです。
この問題をさらに調査するために、LSM-VIA 1.7 には追加のログが含まれています。
- > “Switch to IN”はデフォルトで常に有効になっています。
ただし、現在の実装はクリップでのみ機能します。
保留中の IN / OUT ポイントを持つレコード トレインが制御対象のチャンネルにロードされている場合、“Switch to IN”が適切に管理されません。
- > LSM-VIA を使用すると、オペレーターは、ロードされたリモート レコード トレインとプレーヤーを同期できますが、プレイアウトは一時停止されます。
- > PGM チャンネルと PRV チャンネル間で素材をスワップするときに、PGM チャンネルにロードされたメディアが一時停止されていた場合（例: OUT 境界上のクリップ）、PRV からスワップされたコンテンツはすぐには再生されず、0% のままになります。
- > “Take”でサポートされているエフェクト トランジションは Mix のみで、他の TAKE トランジションはまだサポートされていません。
- > Viewer からクリップの複数選択をコピーまたは移動する機能はまだサポートされていません。
- > 特定の XT-VIA サーバー上で移動されているクリップは、LSM-VIA Shotbox から削除されます。

- > クリップの移動中、オペレーターは LSM-VIA リモコン F キーまたは LSM-VIA Viewer でフィードバックを受け取りません。
LSM-VIA は、移動操作が完了すると通知を提供します。
- > Viewer からのメタデータの編集はまだ利用できません。
- > “Go to TC” および “Search TC” の “User TC” および “From/To date” オプションはまだサポートされていません。
- > オペレーターが “Go to TC” 機能を使用して特定のタイムコードにジャンプし、その後ロードされた CAM をすぐに変更すると、制御されているプレーヤーがユーザー定義のタイムコードにとどまらずに LIVE に戻ることがあります。
- > VIA-SEARCH 展開設定を “Local” に設定して LSM-VIA アプリケーションを起動すると、アプリケーションと同時に VIA-Search サービスが起動します。
これらのサービスが起動して実行されるまでに約 30 ～ 40 秒かかる場合があるため、オペレータが LSM-VIA の起動直後に検索インターフェイスにアクセスすると、オペレータは数秒間インターフェイスを適切に使用できなくなり、この期間中、“Oups something went wrong” という通知が表示される可能性があります。
- > LSM-VIA Viewer の Search Panel インターフェイスの自動更新の最小値は 5 秒です。
従って、検索結果のクリップに加えられた更新（移動、削除、キーワードの編集など）を視覚化するまでに最大 5 秒かかる場合があります。
- > クリップの作成方法によっては、LSM-VIA Viewer の VIA-Search UI に作成日情報が表示されない場合があります。
この情報は、LSM-VIA から作成されたクリップに対して適切に利用可能です。
ただし、クリップが Gbe 経由でプッシュされた場合などは利用できません。
- > オーディオ スプリットによる再生不可能なプレイリスト トランジションを克服するために実装されたリセット メカニズムは、実際のリセットの場合にオペレーターに警告通知を表示しません。
- > 速度が 300% を超える素材を含むプレイリストのフラット化はサポートされていません。
- > プレイリスト オーディオ スワップ機能は、プレイリスト素材全体（IN ポイントから OUT ポイントまで）に影響を与えます。
オーディオスワップのキーフレームはまだサポートされていません。
回避策として “Add Cut” 機能を使用できます。
- > プレイリストの Undo/Redo はまだ利用できません。
- > プレイリストの再生中、プレイリストの残りデュレーションは LSM-VIA Viewer のプレイリスト パネルに表示されません。
このバージョンでは、表示されるデュレーションは常にプレイリストの合計デュレーションです。
ただし、残りのデュレーションはリモコン パネル画面から確認できます。
- > プレイリストが Loop で再生されているときに、オペレーターが最後のプレイリスト素材でループを無効にしようとすると、再生は続行され、プレイリストがもう一度再生されます。
- > プレイリストが Loop で再生される場合、“Next” コマンドは最後のプレイリスト素材では機能しません。
- > クリップまたはプレイリストの再生中に Loop と Post-Roll が同時に有効になっている場合、ポストロールのデュレーションは無視されます。
- > ローカル プレイリストをネットワーク上の別のサーバーにコピーすることはまだサポートされていません。
- > リモコン パネル画面上で複数のプレイリストを並べて表示することはまだサポートされていません。
- > LSM-VIA コンフィグからオペレーターに割り当てられたサーバー プレーヤーによっては、一部のオペレーターは Always Mode でプレイリストをロードできない場合があります（Conditional Mode 常に機能しますが）。
Always Mode でのプレイリストのロードは、PGM1&2、PGM3&4、または PGM5&6 でのみ可能です。
サーバー プレーヤーの他の組み合わせはサポートされていません。
- > XT-VIA サーバーで Mix-on-1-channel が OFF に設定されている場合、LSM-VIA に表示されるプレイリストデュレーションは必ずしも正確ではありません。
- > LSM-VIA は、IPDirector の ABRoll 機能と互換性がありません。
- > Timeline 機能はまだサポートされていません。
- > エクスポート ターゲットが VIA-Xsquare に追加/削除された場合、LSM-VIA リモート ショートカットの編集インターフェイス（“Export” カテゴリ）に表示されるターゲットのリストはリアルタイムで更新されません。

- > Firefox ブラウザで LSM-VIA 設定ページを開くと、Firefox のバージョンが 60.x 以前の場合、一部のドロップダウンメニューが機能しなかったり、誤動作したりすることがありました。
- > コンフィグインターフェースは、リモコン パネルからはまだ利用できません。
- > Hypermotion は、LSM-VIA リモコン パネルではサポートされていません。
このオプションは、LSM-VIA と一緒にサーバー側でアクティブ化しないでください。
- > LSM-VIA Viewer を表示するためにサポートされている解像度は、1920x1080 のみです。
- > オペレーターごとに複数のリモコン パネルを持つ機能はまだサポートされていません。
各オペレーターは独自の XClient-VIA を持っている必要があります。

互換性

ソフトウェア

- > **Multicam 20.5 と Multicam 20.6 (以降のパッチ含む)とのみ互換性があります。**
- > XT-VIA (Multicam LSMモード)と互換性があります。
- > XT-GO (Sportlightモード)と互換性があります。
- > VIA-Xsquare 4.6 (以降のバージョン含む)と互換性があります。
- > Cerebrum 2.3 と互換性があります。

ハードウェア

- > LSM-VIAをインストールできるのは、XClient-VIAハードウェア上のみです。
- > LSM-VIAは、PMZまたは同様のハードウェア上の仮想マシンとして展開できます。
○LSM-VIA 1.7 パッケージは MultiReview 機能を有効にするように設計されているため、ワークステーションのハード ドライブ パーティションの再作成が含まれています。
その結果、LSM-VIA 1.4 OVA で作成された仮想マシンに LSM-VIA 1.7 をインストールすることはできなくなります (以前のハード ドライブ要件は無効になりました)。
従って、仮想化環境に LSM-VIA 1.7 を導入するには、新しい LSM-VIA 1.7 OVA を導入する必要があります。
○さらに、LSM-VIA MultiReview アドバンスド モードは仮想マシンではまだサポートされていません。

配置

- > LSM-VIAリモコンとXClient-VIAハードウェアは常に同じ場所にある必要があり、分散アーキテクチャ内に配置しないでください。
 - > 2つのハードウェア間の往復時間(RTT)は最大20msです。
 - > LSM-VIAワークステーションが仮想化されている場合でも、LSM-VIAリモコンと仮想マシン間のレイテンシーは20msを超えてはなりません。
- > LSM-VIA MultiReview アドバンスド モードには、特定の展開と構成が必要です。
実際、このモードでは、XClient-VIA は EVS サーバーからマルチキャストされたプロキシ ストリームを受信し、スイッチを介して制御ネットワーク (PC LAN) にルーティングする必要があります。
詳細については、LSM-VIA 1.7 Intallation and Configuration Manual および EVS Network Design Guide を確認してください。
- > リモート(LSM-VIAとXTサーバーが異なる場所)で作業する場合、XClient-VIAとXTサーバー間の最大推奨往復時間(RTT)は100 msです。
製品の使いやすさと全体的なユーザーの体感は、レイテンシーが長くなると低下します。